

少年男子の部

県名	三重	愛知	静岡	岐阜	勝数	勝者数	勝本数	順位
三重		$\frac{0}{0}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{4}{2}$	1	5	10	3
愛知	$\frac{8}{5}$		$\frac{2}{2}$	$\frac{6}{4}$	2	11	16	1
静岡	$\frac{6}{2}$	$\frac{3}{3}$		$\frac{5}{4}$	2	9	14	2
岐阜	$\frac{4}{3}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{1}{1}$		1	5	7	4

成年女子の部

県名	三重	愛知	静岡	岐阜	勝数	勝者数	勝本数	順位
三重		$\frac{3}{1}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{2}$	1	4	7	3
愛知	$\frac{4}{2}$		$\frac{4}{2}$	$\frac{6}{3}$	3	7	14	1
静岡	$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{1}$		$\frac{4}{2}$	2	5	8	2
岐阜	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$		0	2	3	4

少年女子の部

県名	三重	愛知	静岡	岐阜	勝数	勝者数	勝本数	順位
三重		$\frac{5}{2}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{0}$	0	2	7	4
愛知	$\frac{5}{3}$		$\frac{2}{1}$	$\frac{4}{2}$	1	6	11	3
静岡	$\frac{7}{5}$	$\frac{5}{4}$		$\frac{4}{2}$	2	11	16	2
岐阜	$\frac{6}{5}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{5}{3}$		3	11	15	1

都道府県対抗剣道大会

監督 吉田 則文

第七十回全日本都道府県対抗剣道優勝大会が四月二十九日(祝)、エディオンアリーナ大阪にて開催されました。本大会は、昭和二十七年全日本剣道連盟設立の翌年五月に、京都大会の一部として開催された歴史ある最初の全国大会であり、今回は、七十回目の節目となる記念すべき大会となりました。

この記念となる大会に岐阜県勢は、以下の布陣で上位入賞を目指し挑みました。
 先鋒 宮川 海流(高山西高等学校)
 次鋒 石原 応記(中京大学)
 五将 藤井 健介(岐阜刑務所)

中堅 長屋 貴則(岩野田中学校)
 三将 伊藤 崇司(岐阜県警察)
 副将 谷村 祐樹(日本耐酸塩)
 大将 森井 俊秀(日本耐酸塩)

一回戦の相手は、令和六年に国体を控え選手強化が図られている佐賀県でした。先鋒宮川選手、スピードある攻めで果敢に攻めるも中盤引き面を先取され、終盤取り返そうと面に出たところを小手に押さえられ負け。

次鋒石原選手、相手の勢いに面を先取されるもすぐさま出端面で対とし、続いて相手が不用意に突いてきたところを見事な返し面で勝利し一勝一敗の五分に。

五将藤井選手、相手の強い攻めにも臆することなく攻め返し、随所に良い機会をとらえた打ちを出すも引き分け。

中堅長屋選手、急遽選手変更としての出場。出端技の良い機会をとらえた打ちで積極的攻めるも有効打突とはならず引き分け。

三将の伊藤選手、何とか勝利しリードをと、再三にわたり技を繰り出すも相手も強者、両者有効打突なく引き分け。

副将谷村選手、相手は体格良い上段の選手。序盤、上段に対しての小手、面返し面と良い機会をとらえて攻めるも、終盤上段からの面を二本合わせられ負け。本数によりここで勝負が決まる。

大将森井選手、何とか勝者数だけでも対にしようと思いついた攻め、相手の打突部位を捉えそうな惜しい打ちを出すも決め手なく引き分け。

結果、一対二で初戦敗退となりました。しかし、二年後に国体を控えた佐賀県チームに対し引けを取ることの無い立派な試合内容でありました。

最後に、まだまだコロナ感染症が十分収束しきれていない中ではありますが、感染対策を十分とりながら、本大会出場選手は勿論のこと各職域の一人一人が全国大会で活躍できる力をつけるべく、日々の稽古に一生懸命励んでいただくことを心より願っております。



第14回 都道府県対抗 女子剣道優勝大会

監督 富多 ちはり

七月十日(日)三年ぶりに日本武道館を会場とし、大会が開催されました。本年度は全日本剣道連盟設立七十周年を記念し、初めての七人制で行われることになりました。五人制とは違い、どの